

# 言語活動が生きる授業づくり 敬語の習得・活用を通して

長崎県佐世保市立小佐々中学校 前田 和子

## はじめに

国語教師として、言語活動を充実させ、国語の授業での学びが社会生活の中で生きて働く授業をしたいと考えている。生徒の一人一人が、ことばの使い手として、相手や目的、多様な場面に応じて適切に表現したり、理解したりする力をつけることをめざして、日々の実践に取り組んでいる。

**\*身につけたい力\***

敬語についての理解を深め生活の中で適切に使えるようにすること。

〈学習指導要領 二・三学年 言語事項(1)キより〉

今回は、この力をつけることをねらいとした実践を紹介する。

## 1 単元設定において

① 実生活の中で敬語を上手に使っていると  
思っている生徒は80名中3名と少なかった。

また、生徒が使っている敬語のほとんどはいねい語であった。生徒たちにとって、敬語は堅苦しく難しいイメージがある。しかし、使えるようになりたいと思っていることもわかった。

② 敬語について考えてみる。敬語は、敬意表現の一つであり、相手や場面によった使い分けを必要とする。人は、ことばを用いて自らの意志や感情を人に伝えるとき、相手や周囲の人と自分の人間関係や社会関係についての気持ちのあり方を表現する。相手を敬いながら、相手に自分を表現し理解してもらうために、敬語を必要とする。敬語の学習は日常のことばを見直し、ことばの力を実感することになる。

③ ことばの知識としての理解を私たちは習得  
と思っ  
てはい  
なかつ  
たか。基礎的・基本的な言語の知識の理解は必須である。ことばは、理解するだけでは意味を  
もたず、使うことで力をもつ。それを「敬語を使おう」でどう展開するか。

そこで、自分の発したことばに対する相手の反応を確かめるような言語活動を考えた。知識として理解した敬語を使う。理解した知識を活用することで知識は定着し、実生活の中で使われる。これが真の習得になる。

**\*実践例「敬語を使おう」(全体計画)\***

- ① 敬語の働きについて知る。
- ② 敬語の文の中の働きを理解する。
- ③ 「敬語でインタビュー」発表準備
  - i 敬語を使った質問・応答準備
  - ii 敬語表現を見直す。
- ④ 「敬語でインタビュー」(発表)

## 2 指導にあたって

① なぜインタビューか。言語活動の場の設定が問題となる。人と初めて出会う、もしくは改まって出会うとき、日常の中の新鮮さを生徒は感じる。そういった場面で生徒は自分や他者をあらためて知る。「出会い直し」の場としてインタビューを考えた。あらためて

相手を理解し、自分を表現し理解してもらうために、新たな関係を築く必要性が生じる。このときに敬語の使用が有効となる。

対話が効果的に仕組まれたインタビュを通して、生徒は、新しい人間関係を生み出している実感をもつ。生徒は、ことばを豊かにするだけでなく、将来出会うさまざまな人間関係や場面において適切に自己を表現できる力をつけていく。

② インタビュの質問準備を行った後、どのような敬語が使われているかを見直す時間を設けた。一つの内容について多様な敬語表現があることに気づかせ、それをあえて使わせた。ことばのもつ微妙な語感を感じさせるためであり、そのことにより表現を豊かにしたいと考えた。

(例)「〜と思った理由は何ですか。」

- ・理由をお話していただけませんか。
- ・理由を伺ってもよろしいですか。

③ 活動は四人一組で行った。インタビュの二人組に評価者と記録者を設けた。質問する生徒の評価をすることで、

★四人の役割

A 中学生  
B ゲスト  
C 評価者  
D 記録者

他者の敬語の使い方が適切であったか客観的に判断する。評価し客観的に価値づけることは自己を高める。記録することは、他者の表現をなぞ

り、吸収することになる。難しいと思わせてしまう敬語の学習の中で、学び合うことを通して敬語を使えるという自信を育てることをねらった。

### 3 生徒の変容から

「今後の生活の中で、敬語を使うことができそうですか」という質問に対して、生徒たちの九割が使えろという意識をもった。単に「敬語について理解した」だけで終わらずに、敬語の有用性とともに「使える」という自信をもったことが嬉しい。また、時と場に応じた敬語が使えなくてはいけないことや、人とのコミュニケーションの取り方、社会生活の中のことばについて考えた感想が聞かれた。一方、謙譲語に対しては、難しいと感じた生徒が多く、「理解はしたものの使えそうにな」とした生徒が三割ほどいた。敬いの気持ちから自分をへりくだって表現することは、生徒の実生活の中で想定しにくいのだろう。

\*生徒感想\*

・敬語を使うと自分もきれいになった気がしました。きれいな心で相手とコミュニケーションをとることができて楽しかった。

・大人になったとき、今回勉強したことが使えたらカッコいいと思った。

生徒はことばの力も感じた。

今後の生活の中で敬語を使うことができますか。	A 思う	B まあまあ思う	C あまり思わない	D 思わない
	20	52	8	0
謙譲語について理解し使うことができましたか。	A 思う	B まあまあ思う	C あまり思わない	D 思わない
	12	33	25	10

(単位：人)

言語事項の学習は知識中心の学習になりがちであるが、ことばの力を感じる表現の場が工夫できたと思う。このことにより、生徒は自分のことばを獲得し、その自信につながった。生徒は、敬語の有用性を感じ確実に習得した。今後の社会生活の中で活用さ

### 最後に

言語活動の充実を目指して、さまざまな工夫がなされている。それらに共通するのは、生徒に身についた力を実感させることである。さらに、有用感、有効性を感じさせることが、生きて働くことばの力に結びついていくと考える。今後も、確かな国語力の定着をめざした工夫と実践を重ねていきたい。

また、かすこ コミュニケーションの基盤となる言語活動の実践に取り組んでいる。「ことばの学びを拓く」(苦の会)にて実践執筆。